

1 主体性を支える援助と環境の工夫

目的を実現する環境の工夫～影絵ができた～ 5歳児 学校法人山梨学院 山梨学院大学附属幼稚園



<きっかけ>「金環日食」をきっかけに、光や影への興味・関心が一気に高まり、光や影にまつわる遊びが子どもたちの中から次々と生まれた。夏休み明け、ある子どもたちが、園庭に面した廊下で影絵遊びをしていた。一方、A児が、夏休み中に作った絵本を、みんなの前で発表したことがきっかけで、絵本作りに夢中になる子どもたちがいた。たくさん絵本ができ、友達や他の学級など、お客さんを集めて見せていた。絵本では、多くの人に一度に見せてあげられないことから、「影で劇をしよう」という目的をもつ。子どもたちは、影絵劇のお話を友達と相談して考え、必要なものを次々に作った。

影を映す場を作る～探求を支える環境の工夫～



金環日食の頃、懐中電灯を遊びで使った子どもたちは、影を作るのに懐中電灯を使い出した。また、子どもたちから、影を映し出すものが欲しいという申し出があったため、保育者が白いボードを用意、懐中電灯を増やした。子どもたちは、早速、影が映るか試し始めた。しかし、残念ながら、影ははっきり映らなかった。子どもたちは、「お部屋が明るいから、映らない!」と訴えてきた。そこで、みんなで、保育室の両側のドアのガラス面を、黒い布や黒い模造紙で覆った。それでも、天窓から光が差し込み、影が濃く見えるほど暗くはならなかった。

影がはっきり映る場を作る～共に考える援助～



どうしたら影が濃くはっきり映るか、子どもたちは話し合いを再開した。「(園庭に面した)廊下は影がよく映る」という意見が出るが、廊下の「床」に影を映すのでは、廊下を通る人の影で消されてしまうという意見も出て…。

A児：「ぼくが発見した影は、廊下で出てたよ。そこでする?」 B児：「ほんとだ!これ、いいんじゃない?」 C児：「だめだよ。人が通ると、ねこの影消えちゃうよ」

影が映る場を求めて試す～目的が実現する環境の工夫～



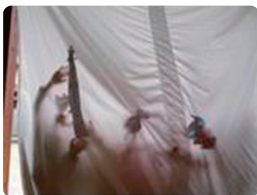
困りはてている子どもたちに、白い大きな布を廊下の園庭側に張ることを保育者が提案した。子どもたちも、やってみようということになった。布を張ると、子どもたちは、早速、影が映るか試し始めた。すると、はっきりとねこたちの姿の影が浮かび上がった!子どもたちは大喜び…。

A児：「よし、影映るかやってみよう」

B児：「うわあ!すごーい!!」

C児：「これで、影絵できるじゃん!!」 ところが…

光を増やして問題を解決しようとする ～問題を乗り越える援助～



太陽が雲に隠れて影が薄くなってしまふことが何度かあった。保育者が、今がチャンスと思い「あれ?なんで影が薄くなったの?」などと声をかけてみた。やがて、子どもたちは、「太陽が雲で隠れた」ということに気付けるようになっていった。

A児：「あれっ!影が薄いよ!」 A児：「あっ!雲が太陽隠しちゃってる!!」

B児：「今まで出てたのに!」 C児：「懐中電灯で光をあてたらいいんじゃない?!」

保育室から懐中電灯を持ってきて、ペープサートを持つ友達の後ろから健気に光をあてようと頑張る子どもたち。布にペープサートを押し付けて、少しでも影が見えるようにと必死になる姿も見られた。しかし、曇り空のもと、懐中電灯では光は足りず、影絵劇場はぼんやりとした影のまま、エンディングへ。それでも最後はたくさんの拍手をもらった子どもたちだった。

<保育者がうれしく思った「科学する」子どもの姿>

現象(影の変化)に興味をもつ

なぜだろうと考える(影がはっきり映らない理由を考える)、試す

自分が知っていること(懐中電灯でも影を作れる)を活かして、問題を解決しようとする

子どもたちの興味の対象への気付きや関わり方をよく見取り、タイミングを捉えて保育者も疑問を投げかけたり、アイデアを出したりなど、子どもの視点に立った援助と環境の工夫をしています。それにより、友達と考えを出し合い、影が濃く出る方法を探求したり、問題を解決しようとしたりする体験が実現し、子どもたちの「科学する心」が育まれていくことが期待できます。